

文化的景観と自然環境

水田耕作における本格的な営農活動が始まり、カエルの鳴き声に代表されるように、生物の活動も活発化してきました。本号では、蘭島（あらぎ島）や周辺地域で確認された動植物の内、全国的にも数が減少している貴重な動植物の一例をご紹介します。

まず、水田内の植物としては、ホシクサが生育していることが注目されます。ホシクサとは、水田や湿地に生育する一年草で、8月から9月頃にかけて先端に小さな白色の花をつけます。かつては、普通に見られた水生植物でしたが、現在は環境の変化により姿を消しつつあります。

次に水田内の動物ではカヤネズミが確認されたことがあげられます。カヤネズミとは、日本最小のネズミ類で、草原や水田内にソフトボール大の巣をつくります。近年は、耕作放棄による草地の減少により、全国的に数が減少しています。



ホシクサ

水田の周辺部では、オオチャバネセリというチョウが確認されました。オオチャバネセリとは、農地や里山周辺の草地に生育するチョウですが、和歌山県では絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危惧が増大している種類）に指定されており、特に和歌山県北部から中部では数が極めて少なくなっています。

以上の貴重な動植物をはじめ、蘭島（あらぎ島）や周辺地域では、人々の生活や営農活動によって維持されている水田や里山の環境が、数多くの動植物の貴重な生育の場となっており、豊かな自然環境が保たれていることが文化的景観の価値を大きく高めています。



カヤネズミ



オオチャバネセリ